何の爲の赦であつたかゞ明瞭でない。しかし是から後大赦といふ言葉が濫に用ひられてゐるやうである。重敎は能樂を好んだから、俊寛にある『非常の大赦』から思ひ付いたのでなからうか。

ダイジヤスギ　大蛇杉　↓オロチスギ　大蛇杉。

ダイシヤマノカヤ　大師山の榧　珠洲郡越坂なる大師山の老榧は、弘法大師が此の地巡錫の際吹上(越坂の一部)の助右衞門の家に憩ひ、食事の後箸を地に挿したのが活着して、右榧・左榧の二樹になつたのであると傳說にいうてゐる。左右といふのは、その長楕圓の種子の外核の筋の卷き方によるのであるが、現存のものは右榧であるとせられてゐるのに、實際左卷が多い。

タイジユ　太壽　↓ナンレイタイジユ　南嶺太壽。

ダイシユウ　大什　石川郡割出眞宗東派行雲寺の僧。天明初年の頃には高倉學寮に於ける寮司二十八人中の筆頭に居り、寛政三年六月擬講格に進んだ。

タイジユウ　諦充　姓は春秋。一名素岳。もと石川郡松任眞宗東派聖興寺の附籍僧であつた。初め哲僧に學び、後高倉學寮に入つて擬寮司となり、明治十二年六月仙龍寺の號を許され、三十四年八月一日六十三歳を以て歿。法名此法院。

ダイジユメ　大衆免　金澤城下一部の總名で、往古は河北郡大衆免村の地内であつたための名である。大衆免中通を挾んで數個の裏町があり、それを一括して大衆免十八町と呼んだ。今大衆免中通・大衆免片原町・上牧町・中牧町・下牧町・平折町・大衆免竪町・大衆免龜淵町・大衆免立川町・大衆免七曲・大衆免横町・御仲間町・大衆免井波町は皆大衆免臺と呼ばれるが、この場合の臺は區といふに同じい。

ダイジユメ　大衆免　河北郡小坂庄に屬する部落。或說に、この地方は大和春日神社の神領で、神宮寺といふ寺があつた。今の神宮寺村は其の遺で、附近の談議所は寺僧の談義する所がそこにあつたからの名であり、而して大衆免は此の寺の大衆領の免田のあつた爲に起つた地名であると。しかし建武四年卯月廿一日附足利尊氏の仁木義有に與へた下文に大志目と書いてゐるから、前說の當否は判らない。又官地論長享二年には『陣ニ取伏見・山科・淺野・大衆目』と見える。

ダイジユメオウマヤチヨウ　大衆免御厩町　金澤の町名で、大衆免御馬屋町とも書いた。元祿頃の記錄にはまだ見當らない。厩方仲間共の居宅があつた爲の稱呼であらう。今は御仲間町というてゐる。

ダイジユメオホグミクミチ　大衆免大組組地　藩政中は大組足輕が三組あつて、其の一組を大衆免の大組と稱し、此の地に組地を賜はつて居住してゐた。龜尾記に、『大衆免大組々地、延寶二年に成る。其時の頭北川庄右衞門也。』とある。

ダイジユメカタハラマチ　大衆免片原町　↓ダイジユメスナハセ　大衆免砂走。

ダイジユメカブラ　大衆免蕪　河北郡大衆免に產した細長い蕪で、非常に香氣が高く、大根の淺漬に混じて漬けられるものであつたが、明治の初年から絕滅した。

ダイジユメガメブチマチ　大衆免龜淵町　金澤大衆免のうちの町名で、今も存する。町名の來由は明らかでない。

ダイジユメシタマチ　大衆免下町　金澤の舊町名。大衆免新町の次に書かれてゐるが、今は絕えて無い。

ダイジユメシヨウザエモンマチ　大衆免庄左衞門町　金澤の舊町名。變異記に、寶曆十年三月二十日大衆免庄左衞門町より出火の事を載せてある。この町名今は絕えて無い。

ダイジユメシンマチ　大衆免新町　金澤の舊町名。大衆免竪町の次に書かれてゐるが、今は廢せられた。

ダイジユメスナハセ　大衆免砂走　金澤の舊町名で、或は大衆免片原町とも呼んだ。元祿六年の士帳に、大衆免砂はせと見えるもので、此の地は用水の傍にあり、砂を流し寄せる故に呼んだのであらう。又片原町といふのは、その家屋が片側のみにあつたから稱したもので、今は大衆免片原町を本名としてゐる。

ダイジユメタテマチ　大衆免竪町　金澤の町名。大衆免中の竪丁なる故の名稱である。この町名は今も殘つてゐる。

ダイジユメナカドホリ　大衆免中通　金澤の町名。金屋町から大衆免の地域に入る中央の通筋なるが故に、大衆免中通りと呼ばれる。

ダイジユメナナマガリ　大衆免七曲　金澤の町名。大衆免の一部で、この名は今も存する。

ダイジユメヒラヲリチヨウ　大衆免平折町　金澤の舊町名。大衆免中通の末で、今は單に平折町といふ。元祿以後に呼び初めた町名であらう。

ダイジユメボウズチヨウ　大衆免坊主町　金澤の舊町名。大衆免の地域内に在つたが、今は廢絕して傳へられぬ。

ダイジユメマキチヨウ　大衆免牧町　金澤の町名。元祿以後に呼び初めた町名であらう。今は大衆免を冠せずして上牧町・中牧町・下牧町といふ。

ダイジユメミツヤチヨウ　大衆免三ッ屋町　金澤の舊町名。大衆免の地域に屬する町名であつたが、今は絕えて無い。

ダイジユメキナミマチ　大衆免井波町　金澤の町名。町内に越中井波瑞泉寺の旅屋がある爲の稱である。

ダイシヨウ　大小　↓タイトウ　帶刀。

ダイジヨウ　大常　↓エチゼンヤダイジヨウ　越前屋大常。

ダイシヨウイツキ　大小一揆　(一)下間兄弟―享祿二年本願寺證如は、下間筑前賴秀及びその弟民部少輔賴盛を加賀に下して金澤御坊を監せしめた。元來この二人は本願寺の家宰であるが、將軍足利義晴の之を御供衆に加へるに及び驕傲甚だしく、敎權を擴充して俗權に及ぼさんことを期し、遂に加賀の一揆を煽動して威を近國に振はんと計畫した。(二)大小一揆の分離―下間兄弟の下國するや、その畫策に就いて三山の大坊主・四郡の長に謀つた。然るに三山の大坊主は、下間の說く所が本願寺の敎旨に背くものなるを以て之に賛せず、四郡の長も三山と志を同じくした。是に於いて下間は本覺寺・超勝寺を援いて己の黨となし、その計畫する所を本願寺の命によると僞り、之に應ぜざるものを法敵と見ねばならぬと宣言し、交爭數次に及んだ。是より三山以下の國衆を大一揆といひ、下間